

つむじ風

コロナ禍で、音楽は！
文化・芸術は？

新型コロナウイルス感染拡大は収束の先が見えない不安な日々が続いています。三密を避けるため、集まれない、大声で歌うこともできない、今まであたり前にやってきたことができない、それは深刻なことです。

文化、芸術は生きる権利、心の栄養。「文化の危機は心の危機」、不要不急のものではないのです。文化の力で「免疫力」を高めよう。「笑い」が増えるとナチュラルキラー細胞の働きが活性化して、免疫力が高まるのだそうです。元気一ぱい笑いのある生活を作りたいですね。

うたごえは「五つの止め」①戦争法廃止②辺野古新基地建設阻止③原発停止④核兵器禁止⑤安倍9条改憲政権に止め、を大きな目標に掲げ運動を進めています。その運動の中でたくさんの歌を創り、歌い、届ける活動を全国で進めているのです。被爆75年記念作品として、うたごえ作曲家による曲が生まれました。その1つの一部を紹介させていただきます。

小澤信和子

“もしあなたがここにいれば” 折り鶴からのメッセージ

もしあなたがここにいれば
戦火の中の子どもたちを励ましたらう
もしあなたがここにいれば
世界は連帯の拍手を送ったらう
あなたの力貸してほしい
僕らの力信じてほしい
平和のためにできることを世界中のみんなと一緒に

学術会議への人事介入を許すな！

静岡市平和委員会は
菅首相に抗議文

10月1日、菅政権は、学術会議委員の推薦名簿105人の中から6人を除外するという暴挙に出ました。学術会議は、政府の一機関ではありませんが、高度な独立性をもっており、首相の任命権は形式的なものと言われています。一般的な官僚人事の延長でやったとしたら、あまりにも見識がないと言わなくてはなりません。

6人の中には、慈恵医大の小澤隆一教授も含まれています。小澤教授は、静岡市平和委員会の会員であり、静岡大学時代には、静岡県憲法9条の会の事務局長を務められた方です。そして、安保法制の時には国会で参事として、菅総理大臣あての抗議文を送りました。

(編集部)

しずおか平和の風

No.66
2020年10月25日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
peacecity1854@gmail.com

ホームページ
https://shizuoka-shi-heiwa-iinkai.jimdofree.com



表題の言葉は、「終末を考慮せよ」と一対の格言とされている。

事の発端で、それがどんな結末をもたらすのかを見極めることの大切さを教えたものである。菅政権の初仕事がなんと、日本学術会議の新会員6人の任命を「理由」なく拒否することであった。

「発端に抵抗せよ」 ～佐藤 博明～

後、解放されるまでダツハウ強制収容所に拘留された。今回の出来事は、「発端」とも「終末」ともみることができよう。それを「終末」とみたと、今回の人事介入は、安倍前政権が恣意的な憲法解釈で「集団的自衛権」の行使容認を強行するため、内閣法制局長官の首をすげ替えたり、特定の検察官人事を念頭に検察庁法の改定を図るなど、この間の人事権乱用の延長線上での一事象だということである。

しかし逆に、形式上の任命権をタテに、法解釈を捻じ曲げ、憲法が保障する言論・表現、思想、結社、信教の自由など、基本的な人権に属する諸権利をその根底で支える「学問の自由」を侵し、その結果、自由な発想と自律した研究活動から生み出される科学・学術研究の成果の、究極の享受者・国民が共有すべき利益を損なうことになるとみたと、これを「発端」ということもできる。そこにあるのは、「発端」と「終末」の因果のスパイラルである。

今回の事件は、安倍前首相と同様、菅首相の反知性主義的で傲岸な体質からの拙劣な政治判断を露呈したもののだが、それ自体人事介入を通じてた組織に対する恫喝であり究極のパワハラである。

それだけに、圧倒的な国民世論の力でこれに反撃し、新会員の任命を勝ち取るため、この「発端」に抵抗しなければならぬ。菅政権の暴挙に対して、まず、学術会議の広渡、大西元会長や山極前会長は、こうした人事介入の違法性を厳しく指摘。そして、各分野の全国学会や大学・研究機関はもとより、各界の団体・個人が一斉に抗議と任命拒否撤回の声を上げている。中でも、「菅首相の任命拒否撤回を求め」オンライン署名が发出後わずか10日間で14万人を超える賛同者を集め、また国際的な科学誌『ネイチャー』や『サイエンス』が、これを「学術の独立を犯す」行為と報じるなど、国の内外を問わず、政治的介入に抗議する声が朝野にあふれている。

戦前期、帝国学士会や日本学術振興会などの学術組織が軍事研究に関わり、戦争に協力した痛恨の歴史の反省の上に、戦後日本学術会議が民主主義と科学の発展を根底から支える知のナショナルセンターとして誕生したことの意味を忘れてはならない。学術研究の戦前回帰を許さないためにも、「発端」のいま、この国の良心と主権にかけて、これを「自分ごと」とし、抵抗の輪を広げなければならない。

最後に、朝日柳壇から一句。

「総合」と「俯瞰」で理由隠蔽し
張本雅文

「敵基地攻撃能力」ってなに？ 日本平和委員会事務局長が語る！



- ◇日時 11月28日(土) 13:30~
- ◇場所 シズウェル601号室
- ◇講演 「敵基地攻撃能力」ってなに？
- ◇講師 千坂 純氏
(日本平和委員会事務局長)
- ◇資料 資料「敵基地攻撃能力」ってなに？
(リーフレット15円)
日本平和委員会、憲法会議発行

今話題の「敵基地攻撃能力の保有」は、安倍前首相の置き土産です。安倍前首相は、このことについて3回、国民に向かって語りました。

一回目は、6月18日の通常国会終了後の記者会見で。二回目は、8月28日に退陣表明の記者会見で。そして、三回目が退陣を目の前にした9月11日、「安倍首相の談話」で遺言のような形で。

安倍前首相がこれほど執着している「敵基地攻撃能力の保有」とは何でしょうか？そのねらいはどこにあるのでしょうか？



静岡市平和委員会では、これらの疑問に答えるために学習会を計画しました。是非ご参加ください。
(事務局)

F35戦闘機から発射された長距離射程ミサイルJSM。射程500km。すでに中期防衛力整備計画で保有を決定。

日本学術会議の新会員6人の任命拒否は 憲法改正への地ならしか

日本学術会議の新会員任命を見送られた候補六人のうちの一人、東京慈恵医大の小沢隆一教授はかつて静岡大に憲法学の教授として在籍されていました。また現在でも静岡市の平和委員会の会員です。「憲法9条を守れ」という運動が始まると県内の『憲法9条を守る会』全体の連絡調整を行う初代の事務局長として活躍されました。そのおかげで「憲法

9条を守る会」が地域や職場で数多く作られました。今も「9の日行動」が行われているのはその結果です。学者仲間からその学問の水準と中身が評価されて推薦されたにもかかわらず理由や説明なしで外されたのは、マスメディアが報じるように、政府の方針に異議を唱えたからということなのでしょう。学術会議が推薦した人物を首相が選別するという

ことはこれまで行われてはいませんでした。ましてや首相以外の人物がその選別を行ったとすれば、明らかに日本学術会議法に違反することになります。これはまた、日本国憲法第19条の思想および良心の自由と第23条の学問の自由にも反することに なります。我が国の歴史を顧みれば1933年の京大事件(滝川事件)、1935年の天皇機関説問題事件と今回の件と同じようなことが行われています。憲法改正への地ならしが始まったということでしょう。平和と民主主義を守るために声を上げ行動しましょう。
(海野 順二)

平和の動き 10~11月



10月

- 19日~30日 米軍沖縄県道104号越え
訓練監視行動：東富士演習場
朝から夜まで監視活動を行います
“ぜひ参加を！”
- 29日(木) 9の日行動 12:00青葉前

11月

- 9日(月) 9の日行動 12:00青葉前
- 15日(日) 浜岡原発再稼働を許さない・
ひまわり集会in静岡
12:30スタート
駿府城公園東御門前広場
- 19日(木) オール静岡アクション
17:30青葉前
- 21日(土) 日本平和大会・オンライン
平和委員会事務所 10:00~
- 29日(日) 9の日行動 12:00青葉前



私の好きな音楽

(8) ~ 宮 秀雄 ~

の「トーマス教会合唱団」(バツハが死まで合唱長をしていた)が東京へ(テオアダムとシュライアー等)、本場のマタイを生で初めて聴いた。以来飽きることがないどころかまた歌いたくなる。数十曲あるコラールやソロ曲も素晴らしい。中でも僕が好きなのは39曲目のアルトソロ。「私を憐れんでください、私の涙ゆえにく私は激しく泣いているのです」とカウンターテノールが切々と歌う。信者ではない僕でもこの歌を聴くとジーン

イエスの受難(復活をオラトリオ曲にしたのが「マタイ」「ヨハネ」両受難曲だ。マタイは2つのオーケストラと合唱団、福音史家とソリスト達、全曲3時間かかる西洋音楽史中の大曲。今から40年以上前にドイツ、ライプツィヒ

指揮のCDがお勧め)。

とくる。バツハコレギウムジャパンのイギリス人のロビンブレイズが僕の好み。故武満徹は癌で死去する直前までマタイを何度も聴いていたそう。ヨハネ受難曲は合唱とコラールが充実している。マタイとは違う魅力を持つ。バツハの器楽曲は、「G線上のアリア」や「2つのヴァイオリンの協奏曲」が有名だ。僕もメンバーになつて「弦楽アンサンブル清水」は今これを練習中。ド素人集団の我々でも何度練習しても飽きることがない。さすが名曲は違う。弦楽器だけのアンサンブルは耳にやさしい。このジャンルで好きな曲はたくさんあるが敢て挙げると 1、チャイコフスキーとドヴォルザークの「弦楽セレナーデ」。2、グリーグの「二つの悲しい旋律」。3、マーラーの交響曲5番第4楽章「アダージェット」(妻のアルマへの愛を歌っているとの説あり、マーラーと同じユダヤ人のバーンスタイン

